

臨時休業明けの年間指導計画参考資料（公民的分野）

※公民的分野の教科書での時数 95 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 22.4 時間

（第 3 学年の社会科全体の時数 140 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 30.4 時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|-----------------------------|--|---|
| 1 | <p>■ 公民学習の初めに（前見返し～p.1）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 公民的分野の学習を始めるにあたって、「公民」の意味について考える。 ● 地理的分野や歴史的分野の学習内容を振り返るとともに、教科書の目次などを基に、これから学習する公民的分野の学習の概要を把握する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 前見返し、後見返し、目次などを見て、公民的分野の学習の概要を把握するとともに、興味・関心をもったものをノート等へ書き出す。 ● 「公民学習のはじめに」にある文章を読み、「公民」の意味について考えたことをノート等に論述する。 【1 時間】 |

第 1 章 現代社会と私たちの生活

（配当 13 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 4 時間）

1 節 現代社会の特色と私たち（配当 5 時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|--|---|
| 2 | <p>■ 章扉（p.5）</p> <p>■ スーパーマーケットから現代社会を見てみよう（p.6～7）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書の資料や自分の体験などを通して、スーパーマーケットに見られるグローバル化、情報化、少子高齢化に気づき、現代社会の特色に関心を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 章扉（p.5）の語句や写真を通して小学校の学習を振り返り、p.6～7 のスーパーマーケットに関する写真やイラストを見て、「やってみよう」の活動に取り組み、現代社会にどのような特色があるかを考え、まとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 【1 時間】 |
| 3 | <p>1 グローバル化—結び付きを深める世界（p.8～9）</p> <p>グローバル化とは 国際競争と国際分業 国際問題と多文化社会</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 人や商品などさまざまな分野でグローバル化が見られることを、具体的な事例を通して理解する。 ● グローバル化によって、生活の利便性が向上するとともに、新たな課題が生まれてきたことに気づく。 | |
| 4 | <p>2 情報化—情報が変える社会の仕組み（p.10～11）</p> <p>情報化とは 情報化による社会の変化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の日常生活を振り返り、情報社会の特色について理解する。 ● 情報化の進展が社会や生活にもたらした変化に気づくとと | |

公民-2

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|--|
| | 情報社会で注意すべきこと | もに、情報社会への対応の仕方について、自分の考えを表現する。 | |
| 5 | 3 少子高齢化—変わる人口構成と家族 (p. 12~13) 少子高齢化とは 多様化する家族 安心社会を目指して | <ul style="list-style-type: none"> ● 人口ピラミッドなどの統計資料を基に、日本における少子高齢化の進行と、その原因について理解する。 ● 少子高齢化の進行や家族の多様化に伴う課題について理解し、その解決に向けた取り組みについて調べ、自分の考えを表現する。 | |
| 6 | 4 持続可能な社会に向けて (p. 14~15) 持続可能な社会とは 東日本大震災と人々のつながり 私たちが創る社会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 琵琶湖の環境保全などの具体的な事例を基に、持続可能な社会と社会参画の考えについて理解する。 ● 東日本大震災の事例を通して、人と人とのつながり（絆）や、社会参画の重要性に気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な社会については、授業を 91 時間目に併せて行うことも考えられる。【1 時間】 |

2 節 私たちの生活と文化 (配当 3 時間)

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|--|
| 7 | <p>1 私たちの生活と文化の 役割 (p. 16~17)</p> <p>私たちの生活と文化 科学・宗教・芸術 文化の役割と課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の中でさまざまな文化が見られることに気づき、関心を持つ。 ● 科学・宗教・芸術を中心に、文化の役割と課題について理解する。 | |
| 8 | <p>2 暮らしに生きる伝統文化 (p. 18~19)</p> <p>伝統文化とは 日本文化の地域的多様性 伝統文化の継承と保存</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の伝統文化について調べ、日常生活に与えている影響について理解する。 ● 日本文化の地域的多様性や、伝統文化の継承と保存について自分の考えを発表することで、日本文化について多面的・多角的に考察する。 | |
| 9 | <p>3 多文化共生を目指して (p. 20~21)</p> <p>世界に広がる日本文化 日本の中の外国文化 多文化共生と異文化理解</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 世界に広く受け入れられ、評価されている日本文化を通して、日本文化に対する理解を深める。 ● 日本の中に見られる外国文化について調べ、多文化共生と異文化理解の大切さに気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第5章3節1項「文化の多様性の尊重 (p. 192~193)」(85 時間目)の資料として、まとめて学ぶことも考えられる。 【1 時間】 |
| - | <p>[深めよう] 伝統文化の継承と私たち (p. 22~23)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の伝統文化の継承について、自分にできることを多面的・多角的に考察する。 ● 伝統文化の継承にはさまざまな方法があることを、具体的な事例を通して理解する。 | |

3 節 現代社会の見方や考え方 (配当 5 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|---|--|
| 10 | 1 社会集団の中で生きる 私たち (p. 24~25) 家族と地域社会 社会的存在としての人間 対立と合意 | <ul style="list-style-type: none"> ● 家族や地域社会などの身近な社会集団の事例を通して、人間が社会的存在であることを理解する。 ● 「漫画 トラブル！」の事例を基に、社会集団における対立の存在と合意への努力について考える。 | |
| 11 | 2 効率と公正 (p. 26~27) みんなが納得するためには 効率とは 公正とは | <ul style="list-style-type: none"> ● 合意を得るためには効率と公正の考え方が重要であることに気づき、それぞれの考え方を理解する。 ● 「学校でのトラブル」の事例について、対立と合意、効率と公正の考え方を踏まえて、多面的・多角的に考察する。 | |
| 12 | 3 決まりを作る目的と方法 (p. 28~29) 決まりの意義 権利, 義務, 責任 決定の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会の一員として、決まりを守るとともに、決まりづくりに積極的に関わろうとする意識を持つ。 ● 「10 年前のマンションの駐輪場問題」の事例を参考に、物事の決定の仕方や決まりの意義についての資料を収集・選択し、的確に読み取る。 | |
| 13 | 4 決まりの評価と見直し (p. 30~31) 決まりは変更できる 決まりを評価する視点 共生社会を目指して | <ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて決まりを見直すことの重要性に気づき、決まりを評価する五つの視点に基づいて多面的・多角的に考察する。 ● 「現在のマンションの駐輪場問題」の事例について、問題の状況や駐輪場利用規則、住民の意見から問題点を読み取り、的確に分析する。 | |
| 14 | ■ この章の学習を確認しよう (p. 32) | ● 作業を通して、第1章で学習した基礎・基本を確認する。 | ● 第1章での学習を振り返り、語句の確認や現代社会の特色の整理、学習内容の確認の問いに取り組む。【1 時間】 |

第2章 個人の尊重と日本国憲法

(配当 16 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 2.6 時間)

1 節 人権と日本国憲法 (配当 5 時間)

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|--|--|
| 15 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 章扉 (p. 33) ■ ちがいのちがい (p. 34～35) | <ul style="list-style-type: none"> ● 文化や個性の多様性について考えることを通して、人権の考え方への関心を高める。 ● 具体的な事例について、人権尊重の視点から検討し、話し合うことを通して、自他の人権について考え、人権意識の基礎を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 章扉 (p. 33) の語句や写真を通して小学校の学習を振り返り、 p. 34～35 の「ちがいのちがい」の「やってみよう」の活動に取り組み、「あつてよいちがい」「あつてはいけないちがい」について、自分の意見と理由を考え、まとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 【1 時間】 |
| 16 | <p>1 人権の歴史 (p. 36～37)</p> <p>人権思想の成立 人権思想の発展と広がり 日本の人権思想の芽生え</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 人権の考え方がどのように発展してきたかについて、歴史的分野の学習内容と関連させながら、年表や文書資料などを基に調べ、短文や図表などに適切に表現する。 ● 日本の人権思想の芽生えについて、大日本帝国憲法を中心に理解する。 | |
| 17 | <p>2 立憲主義と日本国憲法 (p. 38～39)</p> <p>憲法と立憲主義 国の政治の仕組み 日本国憲法の制定</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 立憲主義や三権分立の意義について、模式図などを基に多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現する。 ● 日本国憲法の章立てや大日本帝国憲法との比較などを通して、日本国憲法のあらましを理解する。 | |
| 18 | <p>3 国民主権と天皇の地位 (p. 40～41)</p> <p>国民主権 憲法改正 「象徴」としての天皇</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 国民主権の意義を踏まえ、主権者として政治への関心を高める。 ● 国民主権との関連で、天皇の地位と国事行為について理解する。 | |
| 19 | <p>4 日本の平和主義 (p. 42～43)</p> <p>平和主義と憲法第9条 日米安全保障条約 自衛隊と国際貢献 世界平和を目指して</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 日本国憲法に示された平和主義の考えや、現代の日本を取り巻く平和をめぐる諸課題について理解する。 ● 日本の安全保障と世界平和について、具体的な事例を基に考察し、その過程や結果を分かりやすく表現する。 | |

2 節 人権と共生社会 (配当 7 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|---|
| 20 | <p>1 基本的人権と個人の尊重 (p. 44～45)</p> <p>人権を保障するということ だれもが持っている人権 子どもの人権</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的人権の考え方や個人の尊重の原理に関心を持ち、意欲的に追究する。 ● ハンセン病の事例などを通して、憲法による人権の保障が、社会的弱者を差別などから救済するためのよりどころとなっていることを理解する。 | |
| 21 22 | <p>2 平等権—共生社会を目指して (p. 46～49)</p> <p>平等に生きる権利 部落差別の撤廃 アイヌ民族への差別の撤廃 在日韓国・朝鮮人への差別の撤廃 男女平等を目指して 障がいのある人への配慮 在日外国人への配慮</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 差別問題とその解決への取り組みについて、具体的な事例を通して、関心を高める。 ● 差別をなくすためにどのような努力が行われており、自分には何ができるか考え、分かりやすくする。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 49「公民にチャレンジ① バリアフリーについて考えよう」に取り組み、学校や地域に目を向けながら、バリアフリーの意義についての、自分の考えや理由をまとめる。 【0.2 時間】 |
| - | <p>[深めよう] 共生社会と私たち (p. 50～51)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な資料に基づき、差別問題の解決や共生社会の実現について関心を深める。 ● 差別問題の解決や共生社会の実現について、社会の形成者としての立場から考え、発表したり、話し合ったりする。 | |
| 23 | <p>3 自由権—自由に生きる権利 (p. 52～53)</p> <p>自由に生きる権利 精神の自由 身体の自由 経済活動の自由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 自由について多様な考え方や価値観があることについて、話し合いを通して多面的・多角的に考察する。 ● 日本国憲法が定める自由権について、具体的な事例を通して理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の事前準備として、p. 53「公民にチャレンジ② 私の選ぶ順番は」に取り組み、自由に対する自分の考えや理由をまとめる。 【0.2 時間】 |
| 24 | <p>4 社会権—豊かに生きる権利 (p. 54～55)</p> <p>人間らしい生活を営む権利 生存権 教育を受ける権利 勤労の権利と労働基本権</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 統計資料などを基に、経済格差の拡大と生存権との関わりについて読み取る。 ● 日本国憲法が定める社会権について、具体的な事例を通して理解する。 | |
| 25 | <p>5 人権保障を確かなものに (p. 56～57)</p> <p>参政権 裁判を受ける権利 その他の請求権</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 新聞記事などを基に、参政権や請求権が人権保障を確実にすることとどのように結び付いているか考察し、説明する。 ● 日本国憲法が定める参政権と請求権について、具体的な事例を通して理解する。 | |

公民-7

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|---|--------------------------------|
| 26 | <p>6 「公共の福祉」と国民の義務 (p. 58~59)</p> <p>「公共の福祉」による人権の制限</p> <p>自由権と公共の福祉</p> <p>国民の義務</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 公共の福祉による人権の制限はどの程度まで許されるか、具体的な事例を通して考えるとともに、人権を守り育てる責任の重要性に気づく。 ● 日本国憲法における公共の福祉の考え方や国民の義務について、具体的な事例を通して理解する。 | |

3 節 これからの人権保障 (配当 4 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|---|--|
| 27 | <p>1 新しい人権①—産業や科学技術の発展と人権 (p. 60～61)</p> <p>社会の変化と「新しい人権」 環境権 自己決定権 科学技術の発展と人権</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会の変化に伴って人権上の新しい課題が生じてきたことに、身近な事例を通して気づき、関心を高める。 ● 環境権や自己決定権など、産業や科学技術の発展に伴って主張されるようになった権利について理解する。 | |
| 28 | <p>2 新しい人権②—情報化の進展と人権 (p. 62～63)</p> <p>知る権利 プライバシーの権利 インターネットと人権</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 情報化の進展によって生まれた人権上の課題について、身近な事例を通して考察する。 ● 知る権利やプライバシーの権利など、情報化の進展に伴って主張されるようになった権利について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 63「公民にチャレンジ④ プライバシーの権利と表現の自由について考えよう」に取り組み、プライバシーの権利と表現の自由との関係についての、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2 時間】</p> |
| 29 | <p>3 グローバル社会と人権 (p. 64～65)</p> <p>人権保障の国際的な広がり これからの社会と人権保障</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な人権保障の意義について、具体的な事例を通して理解するとともに、グローバル化の進展に伴う人権の考え方の変化に気づく。 ● グローバル社会における人権上の課題について、新聞記事などを基に読み取り、その過程や結果を適切に表現する。 | |
| - | <p>[深めよう] アイヌ民族と先住民族の権利 (p. 66～67)</p> <p>アイヌ民族と同化政策 先住民族としての権利 国際的な動き</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 先住民族の権利について、具体的な事例に基づいて多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現する。 ● 国内のさまざまな人権上の課題を国際的な視野から捉え直し、問題点や解決のための方法について追究し続けようとする意欲を持つ。 | |
| 30 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ちがいのちがいを追究しよう (p. 68～69) ■ この章の学習を確認しよう (p. 70) | <ul style="list-style-type: none"> ● 第2章の学習の振り返りを通して、社会の形成者として自ら人権を守り、民主的な社会を創り上げようとする態度を身につける。 ● 社会と人権との関わりや人権保障の現状について、具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し、自分の考えを分かりやすく表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 70 で第2章での学習を振り返り、語句の確認や憲法の原理や様々な人権についての整理、学習内容の確認の問いに取り組む。 ● 確認した内容を基に、導入の活動での自分の考えや理由を振り返りながら、p. 68～69 の「ちがいのちがいを追究しよう」の「やってみよう」の活動に取り組む、人権や憲法についての自分の考えを深め、まとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |

第3章 現代の民主政治と社会

(配当 22 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 4.4 時間)

1 節 現代の民主政治 (配当 6 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|---|
| 31 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 章扉 (p. 71) ■ だれを市長に選ぶべき? (p. 72~73) | <ul style="list-style-type: none"> ● 市長選挙の各候補者の政策を市民の立場から分析する活動を通して、政治について関心を持つ。 ● 政治が身近なものであることや、主権者として政治に積極的に参加することが大切であることに気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 章扉 (p. 71) の語句や写真を通して小学校の学習を振り返り、 p. 72~73 の「だれを市長に選ぶべき」の「やってみよう」の活動に取り組み、候補者の主張を通してだれを選ぶかを意思決定し、理由を整理してまとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |
| 32 | <p>1 民主主義と政治 (p. 74~75)</p> <p>政治とは 民主主義とは 多数決と少数意見の尊重</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 政治の目的は、人々の願いを実現し、より良い社会を創ることであることを理解する。 ● 民主主義とは何か、なぜ議会制民主主義が採用されるのか、独裁政治や専制政治との比較などを通して理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の事前準備として、p. 75「公民にチャレンジ⑤ 多数決について考えよう」に取り組み、物事の決定の仕方についての、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2 時間】</p> |
| 33 34 | <p>2 政治参加と選挙 (p. 76~79)</p> <p>政治参加としての選挙 選挙の基本原則 日本の選挙制度 選挙の課題①—棄権の増加 選挙の課題②—一票の格差 政治参加のさまざまな方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 選挙は政治参加の重要な機会であることを理解し、具体的な作業を通して、選挙制度のあらましを理解する。 ● 選挙に関する課題について、主権者の立場から具体的な事例を通して考え、話し合う。 | |
| 35 | <p>3 政党と政治 (p. 80~81)</p> <p>政党の働き 政党政治 日本の政党政治</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 政党が国民と議会を結び付ける役割を果たしており、民主政治において重要な存在であることを理解する。 ● 政党の政権公約を調べ、比較することを通して、政党や日本の政治について関心を持つ。 | |
| 36 | <p>4 マスメディアと世論 (p. 82~83)</p> <p>世論とマスメディア メディアリテラシー 公正な世論を形成するために</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 世論形成におけるマスメディアの役割を理解し、公正な世論形成のためにマスメディアや国民一人一人はどう在るべきか考える。 ● 新聞記事の読み取りや比較を通して、メディアリテラシーを身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 83「公民にチャレンジ⑦ 新聞でメディアリテラシーを身につけよう」に取り組み、メディアによる主張の相違の存在を理解し、相違の理由についての、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2 時間】</p> |

2 節 国の政治の仕組み (配当 10 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|----------|---|---|--------------------------------|
| 37 38 | 1 国会の地位と仕組み (p. 84～85) 国会の地位 二院制 国会の議決と衆議院の優越 国会の会期 | <ul style="list-style-type: none"> ● 二院制や衆議院の優越の意義について、公正などの観点を踏まえて多面的・多角的に考察する。 ● 国会の地位や議決の仕組みについて、その意義を含めて理解する。 | |
| 39 | 2 国会の働き (p. 86～87) 法律の制定 予算の審議・議決 内閣総理大臣の指名 その他の国会の仕事 | <ul style="list-style-type: none"> ● 国会のさまざまな仕事について、日本国憲法の条文や新聞記事などから読み取り、理解する。 ● 法律の制定過程の事例を通して、立法が国会の働きの中心であることを理解する。 | |
| 40 | 3 行政の仕組みと内閣 (p. 88～89) 行政とは 内閣の仕事と組織 議院内閣制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 内閣総理大臣の仕事を中心に、内閣の仕事と役割に関心を持つ。 ● 議院内閣制について、模式図やアメリカの大統領制との比較を通して理解する。 | |
| 41 | 4 行政の役割と行政改革 (p. 90～91) 行政を実行する公務員と財政 行政権の拡大 行政改革 | <ul style="list-style-type: none"> ● 現在の日本の行政が抱える課題と行政改革の取り組みについて調べ、関心を持つ。 ● 社会の変化とともに行政の役割が拡大したことについて、具体的な事例を通して理解する。 | |
| 42 | 5 裁判所の仕組みと働き (p. 92～93) 社会生活と法 司法と裁判所 司法権の独立 | <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事例を通して、法や裁判所が社会生活において重要な役割を果たしていることに気づく。 ● 三審制や司法権の独立が定められていることの意義について考え、理解する。 | |
| 43 | 6 裁判の種類と人権 (p. 94～95) 民事裁判 刑事裁判 裁判と人権保障 | <ul style="list-style-type: none"> ● 裁判における人権保障の仕組みや諸課題について調べ、公正な立場で考える。 ● 裁判の種類や手続きのあらまし、裁判における法曹三者の役割について理解する。 | |
| 44 | 7 裁判員制度と司法制度改革 (p. 96～97) 司法制度改革 裁判員制度 取り調べの可視化と被害者 | <ul style="list-style-type: none"> ● 将来、裁判員に選ばれたらどのような姿勢で臨むべきか話し合い、国民の司法参加についての理解を深める。 ● 国民の司法参加の意義や裁判 | |

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|--|
| | 参加制度 | 員制度のあらましについて理解する。 | |
| 45 | [公民にチャレンジ] 模擬 裁判をやってみよう (p. 98～99) | <ul style="list-style-type: none"> ● 主権者として、積極的に裁判員制度に関わっていこうとする態度を持つ。 ● 法に基づいた論理的な思考力や、多面的・多角的な物の見方、自分の意見を根拠を挙げて表現する力を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 前時の裁判員制度の学習を基に、p. 98～99「公民にチャレンジ⑧ 模擬裁判をやってみよう」に取り組み、事件の概要や証人の証言、検察側、弁護側双方の主張を基に、有罪か無罪か、有罪の場合は量刑についての、自分の考えや理由をまとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |
| 46 | 8 三権の抑制と均衡 (p. 100～101) 三権分立 三権の関係 違憲審査制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の三権相互の関係について理解するとともに、三権分立の重要性に気づく。 ● 「憲法の番人」の語に着目し、違憲審査制の意義について理解する。 | |

3 節 地方自治と私たち (配当 6 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|---|---|
| 47 | 1 私たちの生活と地方自治 (p.102～103) 地方自治とは 国と地方公共団体の役割 地方分権 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治が「民主主義の学校」と呼ばれる理由について考えることを通して、地方自治の意義について理解する。 ● 地方公共団体の種類や役割について、国と比較しながら理解する。 | |
| 48 | 2 地方自治の仕組み (p.104～105) 地方議会 首長 直接請求権 | <ul style="list-style-type: none"> ● 直接請求権について、国民主権や地方自治の観点を踏まえて考える。 ● 地方議会の制定する条例と、二元代表制の仕組みを中心に、地方自治の仕組みについて理解する。 | |
| 49 | 3 地方財政の仕組みと課題 (p.106～107) 地方財政の仕組み 地方公共団体の財政健全化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方公共団体が抱える財政上の課題について調べるとともに、その解決方法について話し合い、発表する。 ● 地方公共団体の財源とその使い道について、統計資料を基に理解する。 | |
| 50 | 4 住民参加の拡大と私たち (p.108～109) 住民の声を生かす 住民運動の広がり 地域社会と私たち | <ul style="list-style-type: none"> ● 今後、自分がどのように地域の政治に関わっていくか考え、主権者としての意識を持つ。 ● 住民参加にはさまざまな方法があることを理解する。 | |
| 51 | [公民にチャレンジ] 私たちの政治参加 (p.110～111) | <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な地域のまちづくりに関心を持ち、地域の活動に進んで参加しようとする意欲を持つ。 ● 見学や聞き取り調査などを通して、身近な地域のまちづくりについて調べ、考えたことを提言としてまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 前時までの地方自治の学習を踏まえて、「公民にチャレンジ⑩ 私たちの政治参加」に取り組み、福山市の例を参考に、身近な地域の課題や、住民参加の仕組みについて調べ、課題の解決に必要な方策や、自らの政治参加の在り方についての、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【1 時間】</p> |
| - | [深めよう] 東日本大震災からの復興と防災—仙台市を例に考える (p.112～113) 仙台市の被害状況 仙台市の復興計画 仙台市の防災対策 復興を支えるつながり 本当の「復興」に向けて | <ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災からの復興について国民の一人として関心を持ち、持続可能な社会の視点を踏まえて、意欲的に追究する。 ● 東日本大震災で被害を受けた地方公共団体が、復興と防災に向けてどのような取り組みを行っているか理解する。 | |

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|--|--|
| 52 | <ul style="list-style-type: none"> ■ X市の市長選挙に立候補しよう (p.114～115) ■ この章の学習を確認しよう (p.116) | <ul style="list-style-type: none"> ● 市長選挙に立候補して、理想のまちづくりのための政策を考案する活動を通して、政治への関心を深める。 ● 第3章の学習を振り返り、主権者として政治に積極的に参加し、民主的な社会を創り上げようとする態度を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p.116で第3章での学習を振り返り、語句の確認や国政・地方行政の仕組みの整理、学習内容の確認の問いに取り組む。 ● 確認した内容を基に、導入での自分の意思決定を振り返りながら、p.114～115の「X市の市長選挙に立候補しよう」の「やってみよう」の活動に取り組む、政治参加についての、自分の考えを深め、まとめる。 ● 教師用指導書付属CD-ROMに収載されているワークシートも活用する。 <p>【1時間】</p> |

第4章 私たちの暮らしと経済

(配当 22 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 3.8 時間)

1 節 消費生活と経済 (配当 5 時間)

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|---|---|--|
| 53 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 章扉 (p. 117) ■ コンビニエンスストアの経営者になってみよう (p. 118～119) | <ul style="list-style-type: none"> ● シミュレーションを通して学習への意欲を高め、経済に興味・関心を持つ。 ● 経営者の視点から消費者の消費行動について考えることで、生活と経済との関係や、経済活動における限られた資源の選択について気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 章扉 (p. 117) の語句や写真を通して小学校の学習を振り返り、 p. 118～119 の「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」の「やってみよう」の活動に取り組み、各候補地の条件を踏まえてどこにコンビニエンスストアを立地させるかの考えや理由を整理してまとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |
| 54 | <p>1 私たちの消費生活 (p. 120～121)</p> <p>私たちの生活と経済活動 商品の選択 家計の収入と支出 より良い消費生活</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 商品の生産と消費を通して暮らしを豊かにする仕組みが経済であることを理解する。 ● 将来の家計の支出を予測し、検討することで、収入と支出のバランスとより良い消費生活の在り方について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 121 「公民にチャレンジ⑩ お金の使い道を考えよう」に取り組み、経済活動の在り方についての、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2 時間】</p> |
| 55 | <p>2 契約と消費生活 (p. 122～123)</p> <p>消費者主権 消費生活と契約 消費者問題の発生</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 広告が消費行動に与えている影響に着目し、消費者主権について関心を持つ。 ● 身近な事例を通して、消費生活が契約によって成り立っていることに気づき、契約の際に注意すべきことについて考え、表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 123 「公民にチャレンジ⑪ 広告について考えよう」に取り組み、広告の特色や情報収集の在り方についての、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2 時間】</p> |
| 56 | <p>3 消費者の権利を守るために (p. 124～125)</p> <p>消費者の権利 消費者問題への行政の対応 自立した消費者</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者の権利とその保護について、具体的な被害例や対応策などを通して考え、考えたことを表現する。 ● 身近な消費生活を通して、自立した消費者として権利とともに責任を負っていることに気づく。 | |
| 57 | <p>4 消費生活を支える流通 (p. 126～127)</p> <p>商品が手もとに届くまで 商業の役割 流通の合理化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな商品の流通経路に、消費者として関心を持つ。 ● 流通の仕組みや役割、流通の合理化の取り組みについて調べ、理解する。 | |

2 節 生産と労働 (配当 4 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|---|---|
| 58 | <p>1 資本主義経済と企業 (p. 128～129)</p> <p>資本主義経済の仕組み 私企業と公企業 大企業と中小企業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 企業の生産活動を中心に，資本主義経済の大まかな特徴を理解する。 ● 中小企業をはじめとする日本の企業の現状と課題について調べ，理解する。 | |
| 59 | <p>2 株式会社の仕組みと企業の社会的責任 (p. 130～131)</p> <p>株式会社の仕組み 株価の変動 企業の社会的責任</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 株式会社の仕組みについて理解し，株価の変動やその背景について関心を持つ。 ● 企業の社会的責任について，具体的な事例を基に考え，考えたことを表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 企業の社会的責任について学んだ上で，p. 131「公民にチャレンジ⑬ 利潤の配分について考えよう」の①に取り組み，自分の考えをまとめる。 【0.2 時間】 |
| 60 | <p>3 労働の意義と労働者の権利 (p. 132～133)</p> <p>労働とは 労働者の権利 労働条件の改善</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 職場体験などの具体的な事例を踏まえた話し合いや発表を通して，労働の意義について考える。 ● 労働者の権利を守り，労働条件を改善するために，労働組合やさまざまな法律があることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 133「公民にチャレンジ⑭ 働くことについて考えよう」に取り組み，労働条件や将来の職業や勤務先についての，自分の考えや理由をまとめる。 【0.2 時間】 |
| 61 | <p>4 働きやすい職場を築くために (p. 134～135)</p> <p>多様化する労働の在り方 増加する非正規労働者 外国人労働者 生きがいを求めて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 労働の在り方や雇用をめぐる環境の変化について，資料を収集・選択して読み取り，関心を深める。 ● 現代日本の労働や雇用の課題を，自分も将来関わる課題として捉え，その解決策について意欲的に考える。 | |

3 節 価格の働きと金融 (配当 5 時間)

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|------------------------------------|
| 62 | <p>1 市場経済の仕組み (p. 136～137)</p> <p>市場経済とは 需要と供給</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 商品の価格について，さまざまな事例を基に考え，市場経済についての関心を高める。 ● 市場経済の基本的な考え方について，身近で具体的な事例を通して理解する。 | |
| 63 | <p>2 価格の働き (p. 138～139)</p> <p>市場経済における価格の働き 独占価格 公共料金</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 価格の働きについて，具体的な事例を基に理解する。 ● 独占価格の影響や，公共料金が設けられている理由について，消費者の立場から考え，理解する。 | |
| 64 | <p>3 貨幣の役割と金融 (p. 140～141)</p> <p>貨幣の役割 お金の貸し借りと金融 金融の方法と働き</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事例を基に，貨幣の役割や金融の働きに興味を持つ。 ● 金融の方法と働きについて，具体的な事例を基に理解する。 | |
| 65 | <p>4 私たちの生活と金融機 関 (p. 142～143)</p> <p>銀行の仕組みと働き 預金通貨 日本銀行の役割</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 銀行の働きや日本銀行の役割について，具体的な事例を基に理解する。 ● 預金通帳を読み取ることを通して，預金通貨の役割について理解する。 | |
| 66 | <p>5 景気と金融政策 (p. 144～145)</p> <p>景気と私たちの生活 日本銀行の金融政策 戦後の日本経済</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 好景気と不景気の特徴についてまとめ，景気変動が社会や生活に与える影響について理解する。 ● 日本銀行が景気を安定させるために金融政策を行っていることを理解する。 | |

4 節 政府の役割と国民の福祉 (配当 4 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|--|--------------------------------|
| 67 | <p>1 私たちの生活と財政 (p. 146～147)</p> <p>財政の仕組み さまざまな税金 税金の公平性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 統計資料を基に国の歳入と歳出について調べ、財政について関心を持つ。 ● 税金の種類や仕組みについて理解し、税金の公平な負担について多面的・多角的に考察する。 | |
| 68 | <p>2 政府の役割と財政の課題 (p. 148～149)</p> <p>市場経済と政府 財政政策 公債の発行 これからの財政</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割を理解する。 ● 公債発行の実態と課題について話し合い、財政の在り方について考える。 | |
| 69 | <p>3 社会保障の仕組み (p. 150～151)</p> <p>社会保障のおこり 日本の社会保障制度 社会保障の四つの柱</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会保障の意義と働きについて、その考え方が生まれた歴史的背景を踏まえて理解する。 ● 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましについて理解する。 | |
| 70 | <p>4 少子高齢化と財政 (p. 152～153)</p> <p>少子高齢化と社会保障 社会保険の現在 福祉社会の実現に向けて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化の進展と社会保障の在り方について、さまざまな統計資料を読み取り、現状や課題を理解する。 ● 日本の社会保障と財政の在り方について、他国の事例と比較するなど多面的・多角的に考察し、話し合う。 | |

5 節 これからの経済と社会 (配当 4 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|--|---|
| 71 | <p>1 公害の防止と環境の保全 (p. 154～155)</p> <p>公害の発生と原因 公害の防止 新しい公害と地球環境問題 循環型社会に向けて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 公害の発生と住民運動, 防止のための国や地方公共団体の取り組みについて調べる。 ● 環境を保全し, 循環型社会を形成するために, 自分には何ができるか考え, 表現する。 | |
| 72 | <p>2 グローバル化する日本経済 (p. 156～157)</p> <p>貿易の役割 為替相場 日本の貿易の変化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 円高・円安といった為替相場の変動が自分たちの暮らしや経済へ及ぼす影響について理解する。 ● 世界経済における貿易の役割や, 日本の貿易の特徴について理解する。 | |
| 73 | <p>3 豊かさと経済 (p. 158～159)</p> <p>経済成長と豊かさ 地域経済の持続可能な発展 人から始まるまちづくり</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな社会とはどのような社会か考え, その実現のために何が必要か, 自分の考えを表現する。 ● 地域経済の持続可能な発展のためには何が大切か, 国内の具体的な取り組みを基に考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な社会を前提とした「豊かな社会の在り方」を考える学習活動であるため, 終章「より良い社会を目指して」(91～95 時間目)で探究するテーマの一つとして扱うことも考えられる。【1 時間】 |
| - | <p>[深めよう] 公害のない社会へ—水俣市を例に考える (p. 160～161)</p> <p>水俣病の発生と被害 「環境モデル都市」への道のり 環境保全と地方自治 公害をくり返さないために</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 公害発生の背景には企業の利潤追求があることや, 環境保全を通して都市発展を目指す取り組みがあることについて理解する。 ● 環境保全のためには, 国や地方公共団体だけでなく, 企業や個人も一体となって取り組むことが不可欠であることに気づく。 | |
| - | <p>[深めよう] 貿易の自由化と日本 (p. 162～163)</p> <p>自由貿易と保護貿易 自由貿易の推進 貿易自由化交渉の進展 日本をめぐる動き</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 自由貿易と保護貿易の考え方や, 貿易自由化交渉の現状について理解する。 ● 戦後日本の貿易をめぐる課題について理解するとともに, 今後の日本の貿易の在り方について考える。 | |
| 74 | <p>■ コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう (p. 164～165)</p> <p>■ この章の学習を確認しよう (p. 166)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● お弁当の企画書を作成する活動を通して, 第 4 章の学習内容を振り返り, 経済の見方や考え方を深める。 ● 経営者の視点や, 効率と公正などの観点を踏まえて多面的・多角的に考察し, 企画書 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 166 で第 4 章での学習を振り返り, 語句の確認や経済の仕組みの整理, 学習内容の確認の問いに取り組む。 ● 確認した内容を基に, 導入でのコンビニエンスストアの立地を振り返りながら, p. 164～165 の「コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう」の「やっ |

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|--------|--------------|---|
| | | に自分の考えを表現する。 | <p>てみよう」の活動に取り組み，経済の仕組みを踏まえた弁当の企画について自分の考えを深め，まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収載されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |

第5章 地球社会と私たち

(配当 16 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動習 2.6 時間)

1 節 国際社会の仕組み (配当 5 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|---|--|
| 75 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 章扉 (p. 167) ■ バター戦争 (p. 168～169) | <ul style="list-style-type: none"> ● 架空の事例を通して、世界で起きている戦争や紛争と解決のための取り組みについて、関心を高める。 ● 戦争や紛争がなぜ起こるのか、どうすれば防ぐことができるのか考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 章扉 (p. 167) の語句や写真を通して小学校の学習を振り返り、 p. 168～169 の「バター戦争」の「やってみよう」の活動に取り組み、紛争を解決して平和に導くためにはどうしたらよいかを考え、まとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |
| 76 | <p>1 国際社会における国家 (p. 170～171)</p> <p>国家とは 国旗と国歌 国際社会のルール</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 国家の主権と領域について理解する。 ● 国際協調のためには、互いの国旗・国歌を尊重し合い、国際法を遵守することが大切であることを気づく | |
| 77 | <p>2 国際連合の仕組みと役割 (p. 172～173)</p> <p>国際連合の目的 国際連合の仕組み 国際連合の役割</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 国際連合の役割と抱えている課題について、さまざまな資料を基に考え、話し合う。 ● 国際連合の仕組みや活動について、総会、安全保障理事会、UNESCO、UNICEF などの具体的な活動を通して理解する。 | |
| 78 | <p>3 地域主義の動き (p. 174～175)</p> <p>ヨーロッパ連合 (EU) 世界の地域主義の動き</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 世界のさまざまな地域主義の動きについて、統計資料などを基に比較し、それぞれの特徴を捉える。 ● 地域主義の動きについて、EU や TPP などの具体的な事例を通して理解する。 | |
| 79 | <p>4 新興国の台頭と経済格差 (p. 176～177)</p> <p>グローバル化と相互依存 南北間の経済格差 新興国の台頭と南南問題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 新興国の台頭などの国際関係の変化について、新聞記事やインターネットなどを基に調べ、関心を持つ。 ● 新興国が台頭する一方で、国内や国際社会における経済格差が拡大していることについて理解する。 | |

2 節 さまざまな国際問題 (配当 5 時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|----------|--|---|---|
| 80 | <p>1 地球環境問題—持続可能な社会の実現 (p. 178~179)</p> <p>危機的な地球環境 地球温暖化と気候変動 国際社会の取り組み 地球環境問題の解決に向けて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境問題の解決に向けて、日常生活で取り組めることを考え、話し合ったり、発表したりする。 ● さまざまな地球環境問題や地球温暖化のメカニズム、解決のための国際協力について、具体的な事例を通して理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 179 「公民にチャレンジ^⑱ 温室効果ガスの排出削減について考えよう」に取り組み、先進国・途上国双方の主張を踏まえて、排出削減策についての、自分の考えや理由をまとめる。 【0.2 時間】 |
| 81 | <p>2 資源・エネルギー問題—限りある資源と環境への配慮 (p. 180~181)</p> <p>限りある資源 日本のエネルギー事情 これからの日本とエネルギー</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 日本のエネルギーの供給・消費の現状について理解し、これからの日本のエネルギーの在り方について考える。 ● 世界や日本のエネルギー供給や消費の状況について、統計資料を基に読み取る。 | |
| - | <p>[深めよう] 日本のエネルギー政策のこれから (p. 182~183)</p> <p>戦後日本のエネルギー政策 原発事故とその影響 世界のエネルギー政策 これからの日本のエネルギー</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 戦後日本のエネルギー政策と福島第一原子力発電所事故後のエネルギーの在り方をめぐる議論について理解する。 ● これからの日本のエネルギー政策はどうあるべきか考える。 | |
| 82 83 | <p>3 貧困問題—公正な社会を創る (p. 184~187)</p> <p>人口の急激な増加 世界の貧困問題 食料供給のかたよりと飢餓 途上国の子どもと女性の問題 貧困をなくすための取り組み 途上国の人々の自立に向けて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 人口増加や食料供給の偏りなどさまざまな要因が重なり合って貧困問題が発生していることについて理解し、その解決策を考える。 ● 子どもや女性といった社会的弱者が貧困の影響を受けやすいことに気づき、自立に向けた取り組みについて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 187 「公民にチャレンジ^⑲ 貧困の解決について考えよう」に取り組み、貧困の原因や結果を踏まえて、解決策についての、自分の考えや理由をまとめる。 【0.2 時間】 |
| 84 | <p>4 新しい戦争—平和な世界に向けて (p. 188~189)</p> <p>続く戦争 地域紛争と難民 テロリズム</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域紛争やテロリズムが起きていることを理解し、その背景について考える。 ● 世界各地で起きている地域紛争の原因を考察し、解決のための国際的な取り組みについて理解を深める。 | |
| - | <p>[深めよう] パレスチナ問題と中東和平 (p. 190~191)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 現代の中東問題の根本にパレスチナ問題があることに気づき、和平への道について考え | |

公民－22

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|----------|---|--|------------------------------------|
| | パレスチナの歴史 イスラエルの建国 報復の連鎖を断ち切れるか パレスチナ難民 | る。 ● パレスチナ問題の原因につい て，歴史的経過を踏まえて理 解する。 | |

3 節 これからの地球社会と日本（配当 6 時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|---|---|
| 85 | <p>1 文化の多様性の尊重 (p. 192～193)</p> <p>グローバル化の中の文化 文化の多様性の尊重 宗教や民族の多様性 異文化理解と国際協力</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●身の回りにある世界の文化や宗教に関心を持つ。 ●世界の文化の多様性について理解し、文化の多様性を尊重することや異文化理解の意義について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 193 「公民にチャレンジ⑩ 文化の多様性について考えよう」に取り組み、多様性の尊重についての、自分の考えや理由についてまとめる。【0.2 時間】 ※1 章 2 節 3 項「多文化共生を目指して」を、ここで資料として扱うことも考えられる。 |
| 86 | <p>2 日本の外交の現状と課題 (p. 194～195)</p> <p>日本の平和主義外交 近隣諸国との関係</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●日本が現在、どのように外交に取り組み、国際社会の諸課題の解決に関わっているのか調べ、理解する。 ●日本の領土をめぐる問題の現状を理解し、日本の外交上の課題について考える。 | |
| 87 | <p>[公民にアクセス] 日本の領土をめぐる問題の現状 (p. 196～197)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●竹島、北方領土、尖閣諸島をめぐる問題の解決に向けた取り組みについて理解する。 ●領土問題の解決策を国内外の成功例から考え、竹島、北方領土、尖閣諸島をめぐる問題について私たちが採るべき対応を提案する。 | |
| 88 | <p>3 世界とつながる日本 (p. 198～199)</p> <p>経済関係の強化 文化交流の促進 世界にはばたく日本人</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●日本が世界のさまざまな地域とつながっていることに気づき、その関わりについて関心を持つ。 ●日本と世界は、政府・企業・NGO などの多様なレベルで、政治・経済・文化・援助などのさまざまな分野においてつながりを持っていることについて理解する。 | |
| 89 | <p>4 世界平和のために (p. 200～201)</p> <p>二つの平和 戦争のない世界を目指して より良い地球社会を目指して</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●平和に二つの意味があることを理解し、国際社会はそれらを実現するためにどうしていけばよいか考える。 ●世界平和の実現のために日本にできる貢献は何か考え、発表する。 | |
| 90 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アニマル大陸の危機を救おう (p. 202～203) ■ この章の学習を確認しよう (p. 204) | <ul style="list-style-type: none"> ●第 5 章の学習を振り返り、架空の国際問題の解決策について考えることを通して、さまざまな国際問題が複雑に絡み | <ul style="list-style-type: none"> ● p. 204 で第 5 章での学習を振り返り、語句の確認や国際社会の仕組みや課題の整理、学習内容の確認の問いに取り組む。 |

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--------|---|--|
| | | <p>合って、国際関係を難しいものになっていることに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対立を解消するためには、利害の調整や効率と公正などの観点が重要であることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 確認した内容を基に、導入での紛争や平和についての自分の考えを振り返りながら、p. 202～203の「アニマル大陸の危機を救おう」の「やってみよう」の活動に取り組み、国際協調による課題の解決についての自分の考えを深め、まとめる。 ● 教師用指導書付属 CD-ROM に収録されているワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p> |

終章 より良い社会を目指して

(配当 5 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 4 時間)

| 累計 時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動 |
|---------------|---------------------------------------|--|---|
| 91 5 95 | 1 社会科の学びを持続可能な社会の形成につなげる (p. 205~206) | <ul style="list-style-type: none"> ● 地理的分野, 歴史的分野, 公民的分野の 3 年間の社会科学習を振り返り, 持続可能な社会に対する関心を高める。 ● 持続可能な社会を実現するためには, さまざまな社会の課題を解決することが必要であることに気づく。 | |
| | 2 持続可能な社会を実現するための探究の方法 (p. 207) | <ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な社会を実現するための解決すべき社会の課題にはどのようなものがあるか確認し, 理解する。 ● 持続可能な社会を実現するための探究の方法について, 自分なりの見通しを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 1 時間目の課題解決の必要性の把握, 探究方法の確認, テーマ設定の留意点の確認を受けて, テーマの設定や資料収集・読み取り, 考察, レポートの作成を行う。 ● 作成したレポートの内容を踏まえて, 持続可能な社会の形成のために自分自身でできる社会参画についての自分の考えを深め, まとめる。 |
| | 3 レポートの作成 (p. 208~211) | <ul style="list-style-type: none"> ● レポート作成の過程について理解し, レポート作成の計画を立てる。 ● 与えられた課題に沿った, 探究に適したテーマを設定する。 ● さまざまな方法で課題を探究することを通して, 調べ方や学び方, 発表の仕方を身につける。 ● 社会の課題を解決するために自分には何ができるか考え, その解決策を提案することを通して, 社会参画の手がかりを得る。 ● レポートの構成やレポート作成の基本的な約束事に従い, 適切なレポートを作成する。 | <p>【4 時間】</p> <p>※生徒からの相談や進捗状況を把握する機会を設けるなど、生徒の学習状況を適宜・把握し、適切に指導する。</p> <p>※1 章 1 節 4 項「持続可能な社会に向けて」を、ここで資料として扱うことも考えられる。</p> |
| | 4 探究を社会参画につなげる (p. 212) | <ul style="list-style-type: none"> ● 実際に社会参画している人の活動や思いに関心を持ち, これからの自分の在り方や生き方について考える。 | |